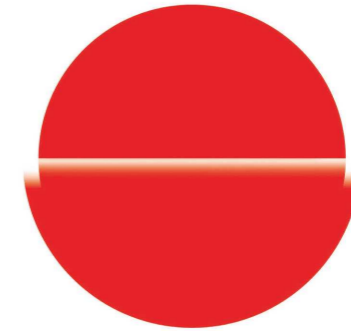


佐野藤三郎 記念

食の新潟国際賞

第8回

受賞候補者推薦要項



Niigata Award



食の増産と改善に成功したモデル都市 新潟。
その新潟が世界の食に貢献し、実践する人、地域活動を表彰します。

新潟の田園風景

公益財団法人 食の新潟国際賞財団

〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町1010番地 新潟市役所ふるまちなか6階

TEL 025-201-8901 FAX 025-201-8902

URL <https://www.niigata-award.jp> E-mail info@niigata-award.jp

※「食の新潟国際賞」は新潟市の補助金を受けて実施しています。



第1回 食の新潟国際賞受賞者(2010年10月29日)

本賞 モンティ・パトリック・ジョーンズ氏
(アフリカ農業研究フォーラム 事務局長)

佐野藤三郎特別賞 袁 隆平氏
(中国国家雑交水稻作業 技術センター 主任)

21世紀希望賞 藤森 文啓氏
(東京家政大学家政学部環境教育学科 准教授)



第2回 食の新潟国際賞受賞者(2012年10月15日)

本賞 ジョゼット・シーラン氏
(世界経済フォーラム副議長・国連 WFP 前事務局長)

佐野藤三郎特別賞 梅林 正直氏
(三重大学名誉教授)

21世紀希望賞 アンメカ・C・イケグオヌ氏
(スモールホルダーズ財団 事務局長)



第3回 食の新潟国際賞受賞者(2014年10月29日)

本賞 坪井 達史氏
(ウガンダ国立作物資源調査研究所 JICA 稲作上級技術アドバイザー)

佐野藤三郎特別賞 C.L. ラクシュミパティ・ゴウダ氏
(国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT) 副所長)

21世紀希望賞 中井 博之氏
(新潟大学大学院 自然科学研究科 助教)



第4回 食の新潟国際賞受賞者(2016年11月9日)

本賞 岩永 勝氏
(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS) 理事長)

佐野藤三郎特別賞 増本 隆夫氏
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 領域長)

佐野藤三郎特別賞 マーシー・ニコル・ワイルダー氏
(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 水産領域 主任研究員)

21世紀希望賞 宇賀 優作氏
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター 基礎研究領域 育種素材開発ユニット 上級研究員)



第5回 食の新潟国際賞受賞者(2018年11月8日)

大賞 荒井 綜一氏：日本
(東京農業大学 総合研究所 客員教授 神奈川県立産業技術総合研究所 食品機能性評価グループ 顧問)

大賞 ジェヤクマール・ヘンリー氏：英国
(シンガポール臨床科学研究所 臨床栄養学センター 所長・シンガポール国立大学 (ヨン・ルー・リン医科大学) 生化学科 教授)

佐野藤三郎特別賞 村田 吉弘氏：日本
(NPO 法人 日本料理アカデミー 理事長・株式会社菊の井 代表取締役 (菊乃井 主人))

21世紀希望賞 前野 浩太郎氏：日本
(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 生産環境・畜産領域 研究員)



第6回 食の新潟国際賞受賞者(2020年11月24日)

大賞 中村 哲・ベシヤワール会・PMS (平和医療団・日本)
(中村 哲氏 ベシヤワール会前現地代表 / PMS (平和医療団・日本) 総院長)

佐野藤三郎特別賞 大坪 研一氏
(新潟大学自然科学系・フェロー / 新潟薬科大学応用生命科学部・特任教授)

21世紀希望賞 矢野 裕之氏
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 食品加工流通研究領域 食品素材開発ユニット・ユニット長)

地域未来賞 江川 和徳氏
(江川技術士事務所 (農業部門) 所長 / 元新潟県農業総合研究所 食品研究センター長)



第7回 食の新潟国際賞受賞者(2022年11月29日)

大賞 ジョゼ・グラジアーノ・ダ・シルバ氏
(国際連合食糧農業機関 (FAO) 前事務局長 / ゼロハンガー研究所 所長)

大賞 中村 丁次氏
(公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 学長 / 公益社団法人日本栄養士会 代表理事・会長)

佐野藤三郎特別賞 中山 輝也氏
(株式会社キタック 代表取締役会長)

21世紀希望賞 齋藤 和樹氏
(アフリカライズセンター 主席研究員)

地域未来賞 伊藤 親臣氏
(株式会社 SnowBiz 代表取締役)

※各受賞者の職名は受賞当時のものです。

佐野藤三郎記念 食の新潟国際賞 第8回 推薦要項

趣旨

WFP 国連世界食糧計画及び国際食糧農業機関（FAO）は現在、世界は新型コロナウイルスのパンデミック、ウクライナ侵攻、経済ショック、気候変動、流通機能の低下、そしてエネルギーと肥料や飼料価格の高騰が重なり、世界的な食料危機であると訴え、世界では8億2800万人（WFP）の人々が飢餓状態にあると警告しています。

まさに食料安保の問題解決が世界の喫緊の課題となり平和の希求と人類の英知の結集による問題解決が重要となっています。

また、国連は2030年を国際目標としたSDGs（持続可能な開発目標）を掲げ、ゼロハンガー（飢餓のない世界）を目指しています。

一方、近年の食糧生産や供給においては、フードテックやアグリテック等による革新的な手法や技術が開発・導入され、異業種間の交流や連携協力により大きな変革が始まっています。

「食の新潟国際賞」は世界において、食の量と質を高め、食を通じて健康増進や世界の人々の福祉と平和に大きく貢献した人や活動を顕彰し、世界の食の課題解決と改善に寄与するために創設された賞です。

「新潟」について

新潟市は古くから農業や食品産業が盛んで、米を中心に日本の食糧生産拠点であり、食品の製造、流通、食文化、研究、食育等の各分野が集中している田園都市です。

「佐野藤三郎」について

かつて、新潟市の稲作は低湿地帯で腰までつかる泥田での厳しい農作業を強いられ、常に水と土との闘いの歴史でした。

新潟市の亀田郷土地改良区 理事長 佐野藤三郎（1923～1994）氏はこの環境改善に挑戦し泥田を日本一の米を生産する美田に変え、食糧生産基盤を確立するとともに都市と農村の融合する地域づくりにも貢献しました。

また、その経験を基に中国政府の要請に応じて黒龍江省の三江平原の食糧増産の基盤作りに情熱をかけた国際協力の先人でもありました。

今日の「食の新潟」を作り上げた多くの先人を代表する人として、その偉業を称え、第二の佐野藤三郎の誕生を期待し、賞のタイトルにその名を冠しました。

推薦要項

目指す目標 ————— 「世界を救う食のイノベーターに光を」
“THE SEARCH FOR FOOD-INNOVATORS CREATING A BETTER LIFE.”

基本テーマ ————— 「食と生命」
第8回国際賞のテーマ — 「食料安保と持続可能な食料生産と供給」

1. 選考基準

- (1) 国際的または地域的な取り組みであり、斬新で独創性があるもの。
- (2) 持続可能な取り組みであり、世界に強い影響力を与えるもの。
- (3) 実績・知名度が低くとも将来の発展が期待できるもの。

2. 対象分野

食分野における①生産と供給 ②食と健康 ③食と教育の視点を前提とし、各賞の対象は以下の通りです。
(主な事例)

- ①食品加工（食品加工、発明・考案・食料の保存）
- ②食料増産（新しい育種技術・栽培技術、土地改良、灌漑、治水）
- ③食料の流通の改善及び発展
- ④食品の安全と食の向上（栄養・食品関連病気などの克服・給食）
- ⑤食品機能による健康増進（食品の機能、病気予防）
- ⑥食品ロス・食料廃棄問題の課題解決と取り組み
- ⑦食・農教育（教育モデル、食育活動・食文化・伝統食の普及）
- ⑧食分野での国際協力・支援活動
- ⑨持続的な食料の保全と確保（養殖技術・自然・環境保護・水産資源保護）

3. 食の新潟国際賞 各賞について(概要)

(1) 大賞（グランプリ）

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞1,000万円 1件
(副賞は受賞者が複数にわたる場合は分配する)
その研究や活動が世界的に高く評価をされ、世界の食の課題の解決や発展に多大な貢献をするもの。

(2) 佐野藤三郎特別賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件
世界や地域間での国際協力・支援活動や研究においての顕著な実績をあげたもの。

(3) 21世紀希望賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件
将来的に世界貢献への可能性と実現性を有する研究や実践活動であり、今後の発展と成果が十分に期待できるもの。

(4) 地域未来賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件
新潟県内における活動や研究が国内外において高く評価され、地域の活性化と発展に大きく貢献するもの。

※各賞とも選考の結果、該当者なしの場合もあります。

4. 受賞候補者資格

- (1) 国籍、性別、信条は問いません。表彰式に出席可能な方に限ります。
- (2) 国際機関・政府機関に所属している個人及び団体については、その業績や貢献が機関の基本的任務を越えて顕著である場合のみ対象とします。
- (3) 顕著な国際賞（ノーベル賞、世界食糧賞、日本賞、京都賞など）を受賞していない個人、団体を対象とします。

5. 受賞者選考について

第8回食の新潟国際賞選考委員会（委員長 唐木英明）により受賞候補者を選定し、当財団理事会で決定します。

6. 表彰式

2024年11月20日（水）に日本国新潟市において開催いたします。

7. 推薦応募方法について

- (1) 推薦応募期間 **2023年9月4日(月)～2023年12月22日(金)**
- (2) 推薦書 指定の推薦書フォームを使用（日本語または英語）
推薦理由を含め2枚以内（厳守）で簡潔に記入してください。
(推薦書フォームはホームページからダウンロードできます)
ホームページ <https://www.niigata-award.jp>
過去に応募し選外となった推薦の再推薦も可能です。
- (3) 再推薦
- (4) 推薦 自薦及び他薦が可能です。
- (5) 秘密保持 ①推薦内容の秘密は守ります。
②各賞の推薦情報については、研究の実用化や実践につなげるため、企業や団体との共同研究、実用化支援の目的で開示する事があります。
- (6) 推薦書の返却 原則として返却致しません。
- (7) 推薦書の送付と送付先 **推薦書はE-mailで送付してください。**
メールアドレス：info@niigata-award.jp
- (8) その他 選考審査過程において、追加資料の提出をお願いする事があります。
- (9) 事務局 日本国 新潟市中央区古町通7番町1010番地
新潟市役所ふるまちなし庁舎6階
公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局

正賞「シュプリングエン」



正賞として授与されるモニュメント（記念工芸品）は、世界的な金属工芸作家である宮田亮平氏（前文化庁長官、前東京藝術大学学長）によって制作された「シュプリングエン」です。テーマは「跳躍。そして希望」。未来に向かって2頭のイルカが力強く宙を舞います。



▲こちらからダウンロード